

校長室より

「二松から飛翔へ」

二松学舎大学附属高等学校
校長 鶴飼教之

オーストラリア スタディーツアー

8月9日から13日間の日程でオーストラリア・クィンズランド州の州立ケドロン high school において、ホームステイによる短期留学がスタートしました。1年生11名・2年生9名、合わせて20名が参加し、私も往路の引率とケドロン高校の校長先生、州の教育省に御礼の挨拶を兼ねて同行しました。出発は便利の良い羽田空港からの出発です。多勢の保護者の皆様にも見送りに来て頂きました。



飛行機は約9時間のフライト、しっかりと身体を伸ばして睡眠できないものの少し休んだようです。

空港を出ると一瞬、“冷っ”としましが、冬季にも関わらず半袖でも十分過ごせる気候でした。大型バスに乗り込むと、元気でユーモアたっぷりの日本人ガイドさんと現地のドライバーさんに圧倒され気味、でも大きな声で挨拶ができていました。



到着の日は終日、市内観光です。一番目の目的地は「マウントクーサ」。市内を一望できる丘から青空と市内の眺望に感嘆の声があがりました。二番目は「ローンパイン」。コアラが有名な自然動物公園を訪れました。間近で愛くるしいコアラを見たり、カンガルー、ウォンバット、タスマニアデビルなどオーストラリアならではの動物に対面したりしました。さらに鷹や牧羊犬のショーも楽しみました。



市内に戻っての昼食は定番のフィッシュ&チップス。想定外の大きさに男子も苦戦していました。食後はブリスベン市庁舎の見学を経て、ケドロン高校でホストファミリーとのご対面です。生徒は最初、緊張の面持ちでしたが、ファミリーと挨拶すると意外とあっさりと迎えの車に乗り込み、手を振ってファミリー宅へと移動して行きました。

宿に戻り、この原稿に着手。引率の石川先生も classi に生徒向けの注意と学校宛に初日の記録をアップされていました。



二日目は、8時45分に学校集合。9時からウェルカムセレモニーです。ケドロン高校の Blair Hanna 校長先生の歓迎の挨拶のあと、私から Blair 校長先生と留学担当の先生方への御礼と現地のクイーンズランド教育省 (EQI) の担当者に感謝を伝えました。

セレモニー終了後、記念品交換の後、生徒はバディと一緒にアイスプレキングなどアクティブな活動に移り、いよいよ交流が始まりました。

その間、私は校長先生らと様々な情報交換ができました。ケドロン高校のカリキュラムや生徒の様子、教職員の人事などにも話が及びました。教育省担当者とは、学校支援の方策などを聞くことができました。国や地域によって教育の方法や考え方は様々ですが、生徒指導の面では一緒です。二松にも参考となる面は生かしていければと思います。

ケドロンは、7年生から12年生が在籍しています。中1から高3に該当し、公立の中高一貫校で生徒数は約1700名に対し、職員数は120名と生徒数に比べ教員数が多いことに驚かされます。EQIでは1学級30名定員としているそうです。12年生の約50%が大学へ進学するそうですが、オーストラリアでは高校卒業後一旦、社会に出る人が多いとのこと。様々な経験を積んで必要ならば、大学に進学して学問を迫及するという考え方が浸透しているようです。高卒後の就職に年齢による差別は一切なく、履歴書には年齢・性別・国籍・学歴・容姿(顔写真)の欄は無いそうです。



生徒は、2時間目(一コマ70分)が終了すると45分間のモーニングティーの時間で、サンドウィッチやフルーツをつまんでいました。オーストラリアでは朝食は簡単なシリアルだけと聞いていましたが、この時間が空腹を補っているようです。3限を受けた後ランチタイムです。



午後は、4時間目の一コマのみ。1・2年生に分かれた、二松生だけの英語の時間でした。基礎的な挨拶等のやり取り等を学んでいました。14時50分のチャイムが鳴ると生徒はバディと一緒にあつという間にいなくなります。部活動も無く、週末はそれぞれファミリーと過ごします。それぞれどんな時間を送るのでしょうか。



生徒の姿を確認するのはこれが最後となりました。私は、週末は今後の研修等で活用できるオプションプランの視察等をして、帰国の途に着きました。後は石川先生と麻生先生に託しました。生徒がこのステディーツアーの機会を有意義に過ごし、無事に自宅に戻れるよう、よろしく願います。

